

鶴ヶ島市附属機関会議録

【開催概要】

会議名	令和7年度鶴ヶ島第二小学校 第3回学校運営協議会
日時	令和8年2月3日（火曜日） 10時30分～13時00分
場所	鶴ヶ島第二小学校 図書館
出席委員	加藤会長、市川委員、細貝委員、久保島委員、鹿内委員、町田委員、 砥川委員、廣木委員、田島委員、岡田委員 (山崎校長)
欠席委員	清水委員、大竹委員
事務局	森田正登教頭、森田雄樹事務主任
議題	(1) 学校評価（関係者評価）
配布資料	資料1 令和7年度 自己評価・学校関係者評価 報告書 資料2 R7学校評価【職員アンケート】まとめ 資料3 タブレット持ち帰りについての保護者アンケート回答
公開・非公開	公開
傍聴人数	0人
会議要旨	・資料1 令和7年度 自己評価・学校関係者評価 報告書について、グループごとに話し合い、話し合った内容を「学校関係者評価委員会による評価」として発表した。

【議事概要】

1 開会（事務局 教頭）

2 あいさつ

<校長>

本日はご多用の中、本校にいらしていただきありがとうございます。いつも様々な活動で本校を支えてくださり、ありがとうございます。

早くも2月に突入し、どの学年もラストスパートに入ってきました。

市内でもインフルエンザによる学級閉鎖が増えているところです。本校でも6年生を中心として、インフルエンザや発熱による欠席が増えているところですが、まだ子供達は元気で、この寒い中でも外で元気に遊びながら色々頑張っているところです。

引き続き、良い学年末が迎えられるように教職員一同協力しながら頑張っていきたいと思っています。

また、先日の24日（土）の持久走大会では、会場として敷地を開放して下さった関水金属様を始めとしまして、たくさんの方のご協力や応援をいただきありがとうございました。

寒さが大変心配されているところでしたが、当日は日差しがとても暖かくて、子供達も気持ちよく走ることが出来ました。

当日は、藤中の陸上部の皆さんにも先導してもらえると、とても贅沢な時間も過ごすこともできました。

本日は、このあと子供達の授業の様子を参観していただきます。普段の様子の子もいますし、普段とはまた違った顔を見せる子もいるかもしれません。どうぞご自由にご参観ください。

また、熟議の時間には、今年度の学校評価について協議していただく予定です。

来年度の学校経営のためにも、忌憚のないご意見を聞かせていただきたいと思います。

本日はよろしくお祈いします。

<会長>

お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。

また、先日は校長からもありましたとおり、関水金属さん、持久走の方で協力いただき、ありがとうございました。

また、委員の皆さんもたくさん応援に駆けつけていただきまして、もう子供達が応援の言葉を聞くと、グッと速さが速くなるのを見て、やっぱりその時の会場の一体感、地域、学校、保護者、その一体になっている姿を見て、「いいなあ、この地域」と改めて感じた次第です。

これからもこういった関係性が続いていくことがとても大事だと思いますので、是非ともご協力をお願いします。

さきほどコロナ、インフルの話がありました。

まだまだこういうのを繰り返す毎年になっていくのかなと思いますが、その中でも大事なのが、活動を色々続けていくこと。その中で、0か100ではなくて、じゃあ何が出来るかなと続けていくことが大事なのかなと思います。

是非ともそういった知恵を貸していただいて、第二小学校の子供達の色々な機会が奪われないよう、これからも是非ともよろしくお祈いします。

今日も忌憚のない意見をどうぞよろしくお祈いします。

3 教育活動視察 10:45 ~ 11:30

4 熟議「学校評価（関係者評価）」

(1) 学校評価について（説明：事務局 教頭）

説明要旨

「資料1 令和7年度 自己評価・学校関係者評価 報告書」は、12月にとった学校評価について、教職員、児童、保護者、地域の回答を質問項目ごとに分けてまとめた資料である。

本日は、この資料1について、グループごとに話し合ってください、ご意見を聞かせていただきたい。分析・課題・方策についてもありましたら、合わせてご意見をいただきたい。

資料1は、本日の皆さんの意見を載せて、教育委員会へ報告させていただきます。

(2) 関係者評価

<委員（グループ①）>

- ・「私は、学校教育目標や教育方針を知っている。(理解している)」という項目に対する「そう思う」「だいたいそう思う」の回答が、地域の回答より保護者の回答の%が低いことが気になった。その要因は何なのか。保護者がどうやったら、学校の教育目標や方針に、もう少し理解を増やせるのか
- ・タブレットやICT機器の活用に関する項目について、昨年度より「活用できている」という回答の%が増えているように見え、そこは素晴らしいと思えた。
- ・体力の項目について、児童の回答を見ると、昨年度に比べて、自分達が体力をつける努力という認識の%が上がっている。
- ・「私は、いじめやトラブルなどの問題に対して、先生やおうちの人に相談し、一緒に解決しようとしている」という項目の児童の回答を見ると、「あまりそう思わない」「そう思わない」の数字がまだ残っている部分がある。この部分が0になるのは中々難しいと思うが、拾いきれていない意見があるという認識をずっと続ける必要が大事だと思う。
- ・教職員の働き方改革や心身の健康についての項目で、「あまりそう思わない」という項目が残っているため、今後も少しずつで良いので、働き方の業務改善を進めていっていただければと思う。

<委員（グループ②）>

- ・地域の関係性の項目について回答をみると、大体80%ぐらい好意的にみていると思う。
- ・「学校は、児童の生徒指導上の課題等に対して、組織的に、家庭等と連携・協力しながら対応している。」という項目に対して、地域の回答として「そう思わない」が19%あることが気になった。

<事務局 教頭>

「学校は、児童の生徒指導上の課題等に対して、組織的に、家庭等と連携・協力しながら対応している。」という項目に対しての地域の回答として、「そう思わない」が19%あるのではなく、「わからない・無答」が19%であることを説明した。

学校の中でのことなので答えられないため、「わからない・無答」という回答が多かった。

<委員（グループ③）>

- ・おおざっぱな考え方になるが、先生方の評価について、教室での学習的な部分になると「わからない」という回答が目立つ。それに対して、学習以外の体力とか地域連携という項目になると、「わからない」という%が減る。先生自身の問題として、一生懸命やっている反面、自分が学習に対してどうなんだろうと自分自身に疑問符を持っている先生がいるのでは。
- ・地域のこういった方にアンケートを取るかによって評価が変わってくると思うが、ある意味熱心に捉えている。
- ・生徒指導の課題、いじめやトラブルに対し、家庭と連携・協力しながら対応しているかについて、学校と保護者の評価結果の割合が似ている。これは、双方が連携出来ている表れではないか。

<事務局 教頭>

- ・地域の皆さんにアンケートを取らせていただいたのは、学校応援団に登録されている皆さんである。

・学習指導の項目に対する、職員の「わからない」という回答だが、「わからない」というよりは授業を担当していない職員（事務職員や補助員）の「授業を担当していないので答えられない」という回答が評価に入っている。そのことを先に補足をすべきだったと訂正した。

<委員>

・学級経営に関する項目で、教職員の「わからない・無答」という回答について、「わからない」という回答はどうか。

<事務局 教頭>

・「学級経営」のため、担任を持っていない教職員は「該当しない」旨として「分からない・無答」の 카테고리回答になっている。担任は皆、「わからない・無答」以外で答えている。

<委員>

資料2や資料3を見ると、保護者からのシビアな声が載っている。

<事務局 教頭>

関心を持っていただいている結果として、良い意見もシビアな意見もあるととらえている。それぞれ参考にさせていただいている。

<委員>

全体としてみた時に感じたことは、私達もそうだが、学校運営協議会・コミュニティスクールを、まだしっかり理解できていない。

学校運営協議会というのは何をしようとするかを全員が同じ土俵にのせない、まずいと感じる。

そうしないと、一生懸命取り組んでも温度差が出てしまう。

<委員>

私は、皆さん理解出来ているようにと思える結果だとも思う。

<委員>

アンケートの声からしても、保護者の回答が、運営協議会に対し「あまりそう思わない」「そう思わない」の%がまだまだ高い。

もっとPTAの会議などで、運営協議会での話題を広めていこうかなと感じる。

<事務局 教頭>

アンケートをまとめた際に感じたが、地域も保護者も学校のために協力していただいている。ただし、保護者と地域がそれぞれ頑張っているイメージがある。そこがもっと溶け合ってしまうと、良いと思う。

<委員>

昔、鶴二小には鼓笛隊があった。

雨で中止になったとしても、どんぐり公園で鼓笛をやらせて欲しいと子供達から言ってきた。

授業日数や指導者等のこともあると思うが、何とか工夫していただき、復活してもらいたい。

<事務局 教頭>

お約束できない状態ではあるが、ご意見はお伝えする。

<委員>

鼓笛の衣装も新しくしたばかりなのに、もったいないですね。という声も聞こえる。

<委員>

鼓笛をやりたいという声も多いのか

<事務局 教頭>

実際の子供の声については詳細に把握できていない。

<委員>

前にもお話をいただいたが、鼓笛をやめるという理由をもう一度聞かせていただきたい。

<事務局 教頭>

- ・編成に必要な人数の問題が、まずある。
- ・教育課程が変わっていった中で、鼓笛という活動が教育課程外の活動になっている。指導要領との整合を考えた時に、鼓笛は立派でとても素敵なものだが、今の教育課程の指導と合致していない。

<委員>

全くの0になってしまうのは、色々な備品も買ってきたことですし、教育の中ではやらないかもしれないが、活用の方法を考えて良いのかと思います。

<委員>

前校長からも、働き方改革の面からもという理由の説明を受けた。

それと地域との関わりを考えた時に、優先順位という問題かもしれないが、少し寂しく感じた。

卒業生が、鼓笛をやめることに関し、すごい寂しそうにしている。私達も手伝ってもよいと言う子もいないではない。

良い例として、持久走大会で藤中の子が伴走してくれた。だから鼓笛だって卒業生がまだ覚えていて、小学生と一緒に出来ないわけがない。

だが、学校の指導要領が大前提である。しかし、それに合致することがまったくないとは、私は思えない。

<委員>

要望としては、そういった声も残っているということだけ、耳に入れておいていただけたらと思う。

5 事務連絡

- ・ 次回の日程 第4回：令和8年3月17日（火）
内容：令和8年度経営方針について
- ・ 来年度の学校運営協議会の委員の推薦について

6 給食試食

7 閉会